

# CWA NEWS



## 会長あいさつ



千葉ウィスコンシン協会  
会長 茂木 友三郎

令和6年最初のCWA NEWSの発刊に当たりご挨拶申し上げます。

はじめに、令和6年能登半島地震で亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。また、被災地の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

皆様方には日頃より千葉ウィスコンシン協会の交流事業等に格別のご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成2年に千葉県とウィスコンシン州が姉妹県州の提携をし、その後、当協会が千葉県側の交流窓口となってから今年で20年目を迎えます。

この間、県が築いた友好関係を更に発展させるべく、幅広い分野で民間レベルの活動を展開してきたことで、地域に根ざした交流の輪が着実に広がり深まってきております。

また、平成21年の新型インフルエンザや平成23年の東日本大震災で友好使節団の派遣受入れ事業が中断することもありましたが、関係各位のご尽力により交流を続けてまいりました。

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大以降中断していたウィスコンシン州友好使節団の受入を予定しておりましたが、諸事情により中止することになり、とても残念に思っております。

今年は、千葉県友好使節団の派遣を実施すべく準備を進めておりますが、併せて千葉ウィスコンシン協会設立20周年記念交流会の実施についても準備を進めております。楽しい交流会を目指しておりますので、多くの会員の皆様方のご参加を期待しております。

また、他の交流事業も着実に実施してまいります。

今後ともウィスコンシン州の皆様は千葉県の良さや県民の素晴らしさをご理解いただけるよう、交流の輪を一層広げ、友好を深めていきたいと思っております。

結びに、当協会の交流事業等につきまして、今後とも当協会の役員、会員をはじめとする皆様方のより一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶といたします。

## 世界にはばたく若者たち

CWA設立20周年を迎えるに当たって、  
これまでCWAに関わった片野聡さんとFrederick Isaac Lauerさんから現況報告をしていただくとともに、  
昨年新規会員になられた阿久津実彩さんに今の心境を語っていただきました。

### 篠笛奏者 片野 聡さん



皆さんこんにちは。2005年にウィスコンシンへの派遣をしていただきました、片野聡と申します。香取市の祭り囃子「佐原囃子」の笛をルーツに、篠笛奏者として活動しております。

派遣当時、私はまだ大学を出たばかりの22歳。篠笛奏者としての活動を始める前でした。海外など夢のまた夢、自分には全く縁のないことと思っていたところに「アメリカで笛吹かない？」とまさかのお誘い。そんな機会をいただけるなんて滅多にないことと即決断。短いウィスコンシン滞在でしたが、それが私の人生を大きく変えることになりました。

初の海外遠征はトラブルから始まります。太鼓が経由地ミネアポリスから別の空港に飛んで行ってしまうという！最初の公演には間に合ったものの、今振り返るとその時のスタッフの皆さん

のご尽力はどれほどのものだったことか……。そして、同行のお囃子チームのメンバーは当時高校生だった男の子3人。やんちゃ盛りの彼らを諫めつつ、時に見て見ぬふりをしつつ(笑)、チームをまとめるために唯一の大人として背伸びしていたことも、今となってはとても良い思い出です。

個人的に今も印象に残っているのはホストファミリーとの出会いでした。特に子供達は英語が全く話せない私にもわかるような単語を考えて、率先してコミュニケーションを取ろうとしてくれました。それが本当に有難かった！当時はあんなに可愛かったのに、今ではすっかりゴツくなっ

てしまった彼らとは、今でもSNSを通じて繋がりががあります。

英語もわからないのに、行く先々で我々の演奏を喜んでもらえたことは、私の中でとても大きな衝撃でした。言葉がわからなくても、自分の演奏でこんなにも心を通わせることが出来るんだという自信にも繋がりました。そして帰国後に、お世話になったホストファミリーに感謝を伝えようと作った笛のCDが、私の篠笛奏者としての最初の一步になりました。

国内では見ることが出来ない景色、触れることが出来ない文化、なによりも普通の旅行では決して出来ない経験をたくさんさせていただいたウィスコンシン派遣。当時社会人1年目の若造だった私も、あれから年月を重ね、篠笛奏者として、曲がりなりにもそれなりの経験を積むことが出来ました。それも全て、このウィスコンシン派遣がはじまりです。

またいつか現地を再訪し、少しは成長した(であろう)私の笛の音を聞いてもらうことが、今の私の大きな夢のひとつです。



2005年9月 ウィスコンシン州



2005年9月 ウィスコンシン州



2016年5月 ドイツ デュッセルドルフ



2023年7月 ロンドン アビロード



## カムイキッズ共同創設者(元ALT) Frederick Isaac Lauerさん



\*写真は奥さんとのツーショットです。

### Bridging Togane and Yamagata: The Evolution of Kamui Kids

Dear Chiba Wisconsin Association Community

Sometimes I have trouble believing that I am almost 40 years old. I have even more trouble comprehending the amount of time that has passed between when I started living in Chiba, to where I am now. 15 years ago, I would have never imagined I'd be married with two children, still living in Japan, and working in a field entirely distinct from most of my other professional leanings.

In preparation for this article, I found myself reflecting on my transformative years as an Assistant Language Teacher in Togane, Chiba, from 2009 to 2014. I often see a connection between those formative experiences and the inception of the organization I co-founded in Yamagata: Kamui Kids.

In Togane, my involvement with the high school's alpine climbing club was a pivotal moment that reawakened my passion for the outdoors and reminded me of the joy and wonder I felt in nature as a child. Climbing in the Minami Alps with fellow students and teachers was always a harrowing experience, full of beauty and challenges. My adventures in the mountains of Japan largely shaped my decision to study Systems Ecology in graduate school in Montana. And, my time in school was instrumental in shaping my vision for Kamui Kids. It highlighted the importance of outdoor activities in fostering a sense of adventure, resilience, and a deep connection with the environment. The joy and learning that came from those climbing expeditions and the further enrichment in graduate school laid the groundwork for my commitment to offering similar transformative experiences to children.

Here in Yamagata the rich, natural environment offers the perfect setting for Kamui Kids. Here, we've created a space where children can immerse themselves in nature, engaging in activities that range from climbing trees, catching all manner of mini beasts, and exploring rivers to participating in multicultural events and communal cooking. These experiences are designed not just for fun but to instill a sense of wonder, curiosity, and respect for the natural world all while building community.

Our mission at Kamui Kids extends beyond outdoor play; it's about creating a learning environment where children are encouraged to take risks, pursue their interests, and direct their days with minimal adult interference. This philosophy of self-directed, experiential learning was inspired by my direct observation of the detriments of some of our contemporary education systems. I have personally witnessed the impact of engaging students in activities beyond the traditional classroom setting, especially in the way it can foster wonder.

At Kamui Kids, we allow children the freedom to explore their surroundings and learn from the rich tapestry of life around them. Our shared experiences, from living together short-term in share-houses, to camping adventures, reinforce the importance of community, collaboration, and shared growth. And we believe our work is crucial in building a foundation for children to thrive as confident, compassionate, and curious individuals. By accepting children exactly as they are, we are committed to creating a future where everyone has the opportunity to live an authentic, and meaningful life.

As we continue to grow and evolve at Kamui Kids, the spirit of exploration, discovery, and community that I cherished in Togane remains at the heart of our work. We are working to transform childhood and inspire future generations to embrace the outdoors and self-directed education, to follow their passions, and to engage with the world around them in meaningful ways.

Thank you for this opportunity to share a bit about my work with you! The sense of community I felt strongly both in Togane, and during my membership and work with the CWA, all played a pivotal role in shaping the passions I hold today. Even though I'm many kilometers away, I still hold Chiba close in heart, and I always will.

For more information, or to support our efforts, please visit [www.kamuikids.org](http://www.kamuikids.org) and add us on instagram at [www.instagram.com/kamuikids](https://www.instagram.com/kamuikids). We always look forward to welcoming new members to our community! If you are interested in supporting our efforts through a donation please contact me at [fred@kamuikids.org](mailto:fred@kamuikids.org).

With Gratitude, Frederick Isaac Lauer  
Co-Founder of Kamui Kids



### 東金から山形へ：カムイキッズの進化

千葉ウィスコンシン協会の皆様へ

私がもうすぐ40歳になることが信じられません。15年前、日本に住み2人の子供がいて、他とはまったく異なる分野の仕事をしているなんて想像もしていませんでした。

振り返ると、2009年から2014年まで東金市でALTとして過ごしたことと山形で共同設立したカムイキッズ立上げとの間に関連性を感じます。

東金では、高校の山岳部との関わりがアウトドアへの情熱を呼び覚まし、子供の頃自然の中で感じた喜びと驚きを思い出させてくれました。南アルプス登山は、美しさと挑戦に満ちたいつもハラハラする体験でした。その体験は、モンタナ州の大学院でシステム生態学を学ぶという決断に大きく影響し、それがカムイキッズのビジョン作成に役立ちました。冒険心、回復力、環境との深い関わりを育む野外活動の重要性が浮き彫りになりました。登山で得た喜びと学びそして大学院でのさらなる深化が、子どもたちに同様の変化をもたらす体験の提供という私の信念の土台を築きました。

豊かな自然に恵まれたここ山形は、カムイキッズにとって最高の環境です。木登り、虫等の捕獲、川探検、多文化イベント、共同クッキングなど子どもたちが自然にどっぷり浸かることができる空間をつくりました。これは、単に楽しむだけでなく、自然界に対する驚きや好奇心、尊敬の念を植え付け、コミュニティを築くことを目的としています。

カムイキッズの使命は、外遊びだけでなくとどまらず、子どもたちがリスクを冒し、興味を追求し、大人の干渉を最小限に抑えて毎日を通してそのような学習環境を作ることです。

シェアハウスでの短期間の共同生活やキャンプでの冒険などの体験は、コミュニティ協力、そして成長を共有することの重要性を強化します。それが、子どもたちが自信を持ち、思いやりがあり、好奇心旺盛な人間として成長するための土台を築く上で極めて重要です。子どもたちをありのままに受け入れ、誰もが本物の意味ある人生を送る機会

を持てるような未来を創ることに私たちは全力で取り組んでいます。

私たちは幼年期を変革し、未来の世代がアウトドアや自主的な教育を受け入れ、情熱に従って行動し、有意義な方法で周囲の世界と関わるようになるよう取り組んでいます。

東金やCWAで活動する中で強く感じたコミュニティ意識は、今私が抱いている情熱を形づくる上で極めて重要な役割を果たしました。私は千葉のことをずっと心に留めています。

より詳しい情報は [www.kamuikids.org](http://www.kamuikids.org) を、インスタグラムは <http://www.instagram.com/kamuikids> をご覧ください。寄付による支援は [fred@kamuikids.org](mailto:fred@kamuikids.org) までご連絡ください。

感謝の気持ちで、  
カムイキッズ共同創設者 フレデリック・アイザック・ラウアー

\*日本語は紙面の都合で意訳としました。

## 阿久津 実彩さん



千葉ウiskonシン協会の皆様、はじめまして。

私は、千葉県で精神科医として働きながら、千葉大学大学院医学研究院認知行動生理学教室で大学院生として認知行動療法に関する研究を行っています。CWA会員としては、2023年11月18日の食文化交流会から参加させていただいております。まだ、会員になって日は浅いですが、すでにとっても良い経験と出会いを得ることが出来ました。

会員になろうと思ったきっかけは、大学院の交換留学で、2024年8月からウiskonシン州のウiskonシン大学ミルウォーキー校に1年間行くことが決まったためでした。これまで海外経験がほとんどないにも関わらず、1年間の長期留学に加えて、8歳の娘も一緒に連れていくという大きなハードルが目の前に現れたため、藁をもすがる思いで、イベントに参加させていただきました。

イベントでは、会員の皆様と英語を交えてお話ししながら、巻き寿司を作ったり、またローストターキーやマッシュポテト等も味わう事が出来、本当に楽しい時間を過ごさせていただきました。娘も初めての体験をし、目を輝かせて楽しんでおりました。ウiskonシン大学ミルウォーキー校出身の方と知り合いになれたり、また、現在ミルウォーキーに住んでいる方を紹介していただいたりと、心強い出会いもたくさんいただき、参加してよかったと心から思っております。



2023年11月18日 食文化交流会



2023年10月 カナダ  
ハリファックス ペギーズコーブ

また、このような個人的な機会をいただいただけではなく、ウiskonシン州と千葉県が30年にも渡って姉妹交流を行い、親交を深めてきたことを知り、その一員になれることは私にとって非常に大きな事だと思っています。ただ留学を楽しむだけでなく、将来的に大学で学んだことや、伝統、医療、食文化等生活の中で、多くのことを学び、千葉県でまたそれを還元し、活かすことが出来ると思うからです。

COVID-19が猛威を振るい、親交が途中難しかったこともあると伺いました。また今後もそのようなこともあるかもしれませんが、自分の故郷と友好関係を築いてくれる地域が世界にあると思うだけで、心が強くなれる気がします。私と夫にとっても、また娘にとってもかけがえのない1年間にし、また千葉県に戻ってきて、その魅力を皆様にお伝えできたら良いなと思います。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## CWAからのお知らせ

令和6年度の理事会及び総会・20周年記念交流会については、右記のとおり予定しています。なお、会員の皆様には、総会及び20周年記念交流会等の開催内容について郵便によりお知らせします。

令和6年度 理事会  
6月22日(土) ホテルポートプラザちば  
令和6年度 総会・20周年記念交流会  
6月22日(土) ホテルポートプラザちば  
総会:16時から  
20周年記念交流会:17時から

【訃報】 林和也様におかれましては、当協会発足以来運営委員会においてアドバイザーとしてご尽力いただいたところですが、令和5年11月26日、ご逝去されました。これまでのご貢献に感謝するとともに謹んでご冥福をお祈りいたします。

## 【編集後記】

今回はCWAが来年度設立20周年を迎えるに先立ち、これまでCWAに関わった若い方たちにご登場いただき、CWAとの関わりや現況、これからの思いを忌憚なく語っていただきました。その内容はCWAの今後の活動の方向性を示唆しているようにも感じられます。CWAは今後の3人のご活躍を見守り続けるとともに、引き続き交流の輪を広げてまいります。

発行所：千葉ウiskonシン協会

発行人：森山茂男 編集：広報部会

当協会のURL：<https://chiba-wisconsin.net/>

〒261-0023 千葉市美浜区中瀬1-3 幕張テクノガーデン

(公財)ちば国際コンベンションビュロー内

\*電話でのお問い合わせ ☎043-223-2394(千葉県国際課内)